

は し が き

本書は、2004年1月18日に70歳の誕生日をお迎えになった兵庫教育大学名誉教授三浦常司（みうら・つねし）氏の古稀をお祝いするささやかな記念論文集として計画したものです。しかしながら、編集者の至らなさのために、仕上がりがはるかに遅延してしまいました。ご本人にはもとより、ご寄稿いただいた方々、ならびに出版社の方々にたいへんご迷惑をおかけいたしました。心からお詫び申し上げます。

三浦教授は、正式に大学に勤務し始められた1958年以来、古英語、中英語、現代英語のすべてにわたって広範な研究活動に携わり、多くの優れた業績を挙げてこられました。その中でも最もよく知られているお仕事は、チャーサーに関する論考ならびに中世英国ロマンスに関する多数の研究と翻訳です。

三浦教授のご研究の特色は、何といても正確さと綿密さです。どんな権威ある書物の中の引用文一つといえども、鵜呑みにされることはありません。必ず原典に当たって細かく確認されます。事実を最重視され、つねに実証的立場を貫いてこられました。この点で、三浦教授は、今はだんだんと失われてきている緻密なフィロロジ研究の分野で日本を代表するお一人です。現在まで半世紀以上に及ぶ長い研究生活の多くの時間を輪読会と共同研究に費やしてこられました。それも独りよがりを受け、客観性を求める精神に基づくものに違いありません。

本書は、三浦教授を恩師として、あるいは先輩として、さらには同僚や友人として、互いに研究の時間やおしゃべりの時間を分かち合った有志の者たちが、研究成果を持ち寄って編んだささやかな論文集です。寄稿者たちはそれぞれ関心の赴くままに多様な題目を掲げていますが、何を扱っていても、詰まるところ人が心を通わせる手だてとしてのことば、互いの胸に響きあう

ことばの本質に一步でも近づこうとする試みです。書名を「ことばの響き」とした所以です。

タイミングはそうとう外れましたが、三浦教授には、寄稿者たちからのお祝いと感謝の気持ちをおくみとり頂き、この先も永く私たちをご指導・ご鞭撻くださるよう執筆者一同、心からお願い申し上げます。

2名の編集者のうち、三浦教授に記念論文集を献呈したい旨を発案したのは西村秀夫でした。今井はそれを受けて、ことの重大さに気づき、西村の住む明石の喫茶店で二人で最初の相談を行ったのが2002年3月31日のことでした。寄稿者の方々への執筆依頼までは比較的順調に進みましたが、原稿提出の期限は大幅に延ばさざるを得ず、編集作業自体も、原稿の修正その他のお願いなどに多くの時間を要しました。そのような作業のほとんどすべてを西村が担当し、今井は、遅れに対する寄稿者諸氏からのお叱りをいただくことに終始いたしました。関係の皆様重ねてお詫び申し上げます。度重なる遅延の言い訳とお願いを辛抱強くお聞き下さった開文社出版社長安居洋一氏に心からお礼を申し上げます。

2007年6月

今井 光規

[付記] 時ならずして急逝された田尻雅士氏の論文は遺稿に基づくものです。